

近畿大学医学部附属病院輸血・細胞治療センター(旧輸血部)業務の変遷

輸血をめぐる社会の動き

輸血業務の変遷

ガラス瓶採血からバッグ採血へ 1975	1975	1975 近畿大学医学部附属病院輸血部設立 1975 交差適合試験・抗体スクリーニングに間接クームス法導入 1977 成分採血装置ヘモネティクスモデル30導入 供血者による院内血小板採取開始 1978 HLAタイピング開始
	1980	1981 HLA抗体スクリーニング開始 1982 成分採血装置ヘモネティクスモデルV50導入(院内血小板採取) 1983 輸血副作用の原因調査開始 1984 輸血後NANB肝炎調査実施
献血に400ml採血と成分採血導入 1986 日赤製剤にHIV抗体検査導入 1986 日赤製剤にHCV抗体検査導入 1989	1985	1985 輸血検査システム導入 1986 成分採血装置 IBM 2997 導入 血漿交換開始 1989 末梢血幹細胞採取開始 1989 貯血式自己血輸血開始
エリスロポエチン臨床応用 1990 G-CSF臨床応用 1991 日赤供給製剤がCRCからRC-MAPへ 1992 自己末梢血幹細胞移植保険適応 1994	1990	1991 X線照射装置導入、血液製剤への照射開始、MPHA法で抗血小板抗体スクリーニング開始 1991 洗浄血小板調整開始 1992 成分採血装置COBEスペクトラ導入 (末梢血幹細胞採取・血漿交換) 1994 末梢血幹細胞の輸血部管理開始(採取・保管・検査・解凍)
血液照射保険適応 1994 臍帯血移植保険適応 1996 日赤製剤にNAT検査導入 1997 日赤で照射血供給開始 1999	1995	1995 妊婦健診に赤血球・血小板抗体スクリーニング導入 1997 輸血同意書義務化、血液対策委員会から輸血療法委員会に名称変更 1999 輸血検査24時間体制(中央臨床検査部と合同)
同種末梢血幹細胞移植保険適応 2000 生物由来製剤感染等被害救済制度開始 2004 輸血学会近畿支部I&A開始 2004	2000	2000 血液製剤の病棟搬送開始、輸血管理システム(ビトラス)更新 2003 全自動輸血検査機器導入、輸血オーダーリングシステム導入 2004 輸血前検体保管開始 2004 PDAIによる輸血認証システム導入、日本輸血・細胞治療学会I&A当院認定
輸血管理料保険適応 2006 日赤製剤すべて白血球除去実施 2007	2005	2005 新鮮凍結血漿の解凍後出庫開始 2006 ADAMTS13の測定開始 2008 電子カルテ導入、アルブミン製剤の輸血部管理開始 2009 日本輸血・細胞治療学会I&A更新、院内輸血監査委員会設置
洗浄血小板保険適応 2012	2010 2013	2011 輸血部単独での当直体制開始 2011 手術部検査室(血液ガス、電解質、FFP解凍、血液搬送)・採血室への検査技師の出向、フロー-PRA測定開始 2012 輸血部から輸血・細胞治療センターへ名称変更 2012 輸血管理料保険請求開始、地域連携病院との連携活動 2013 全自動輸血検査装置更新、輸血管理システム(ルーバ)更新、赤血球抗体保有患者への説明開始